

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間: 2004年9月下旬から11月上旬までの旬別

対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業: さんま棒受網漁業

対象魚群: 南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 9月下旬には中位から高位に増加してピークに達する。10月上旬から10月中旬にかけて減少し、10月下旬以降は低位水準で推移する。
- (2) 漁場: 引き続き、落石～釧路沖と襟裳岬周辺に漁場ができる。この傾向は10月上旬まで持続するが、来遊量が急減するのに伴い、落石～釧路沖の漁場が散発的となり、襟裳岬南沖が主漁場となる。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 9月下旬に急増し、中位水準となる。その後10月上旬までは中位水準で経過するが、10月中旬から減少し、11月上旬には低位水準となる。
- (2) 漁場: 9月下旬は、北部の八戸～宮古沖が主漁場となる。10月上旬には、北部から南部にかけて断続的に漁場ができる。10月中旬以降は南偏傾向となる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 9月下旬以降、低位水準ながら来遊があるが、本格的に来遊するのは10月中旬以降となる。10月下旬も増加を続け、11月上旬には高位水準となる。
- (2) 漁場: 9月下旬には、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が本格化する10月中旬以降は、常磐南部から鹿島灘が主漁場となり、持続する。

### 2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位増加	高位減少	急減	低位水準	低位水準
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	襟裳岬南沖	襟裳岬南沖	襟裳岬南沖
三陸海域	来遊量					
	動向	急増	中位水準	中位水準	中位低下	低位水準
	漁 場	八戸～宮古沖	北部～南部	南偏傾向	南偏傾向	南偏傾向
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	断続的	低位増加	中位増加	高位水準
	漁 場	北部	常磐南部～鹿島灘	常磐南部～鹿島灘	常磐南部～鹿島灘	常磐南部～鹿島灘

### 3. 漁況の経過概要

(9月上旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬をやや上回ったものの、道東海域まで来遊した魚群は引き続き少なく、平年・前年を下回る水準であった。日別 CPUE (1網当たりの漁獲量) から判断すると、5 日から来遊量が減少したが、8 日から増加し、9 日には期前半の水準へ戻った。

##### (2) 漁場

今期の道東海域の主漁場では、主に小型船が操業した。1 日夜・2 日夜は、落石南南東 15～20 海里付近の表面水温 12～13 が主漁場。1 隻当たり 4～5 トン程度漁獲する船が多かった。3 日夜から、漁場が厚岸大黒島南 20 海里～釧路南 30 海里付近の表面水温 11～15 へと移動し、5 日夜まで持続した。平均 4～5 トン漁獲する船が多かったが、徐々に漁獲が少なくなった。6 日夜には釧路南の漁場は消滅し、厚岸大黒島南 20 海里～落石南 15 海里付近の表面水温 14～16 が主漁場となった。1 隻当たり 2～4 トン程度漁獲する船が多かった。8 日夜は台風 18 号の影響でほとんどの船が出漁できなかった。台風通過後の 9 日夜・10 日夜は、落石南東 15 海里的表面水温 15 が主漁場となった。また、9 日夜に、襟裳岬南 60 海里的表面水温 15 で数隻が操業し、数トン漁獲したが、この漁場は 10 日夜には消滅した。

##### (3) 魚体

期前半は、30～32cm の大型が主体。6 日夜に漁場が落石南へ移動した後は、30～32cm の大型が主体で 25～27cm の中型が 2 割程度混ざる組成へと変化した。